

効率よく乳牛の栄養になる 牧草サイレージはこれだ！

概要 Abstract

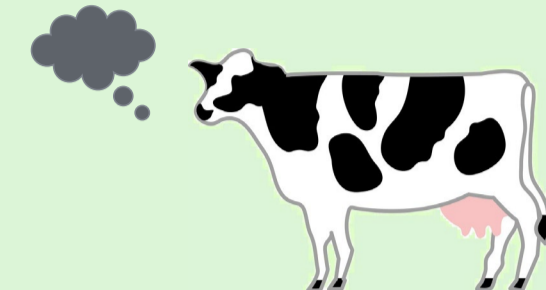
牧草サイレージの繊維の含量と消化性は乳牛の摂取量の指標になります

繊維の含量が低く、消化が良いと牧草サイレージからの栄養摂取量が多く、自給飼料の割合を高められます



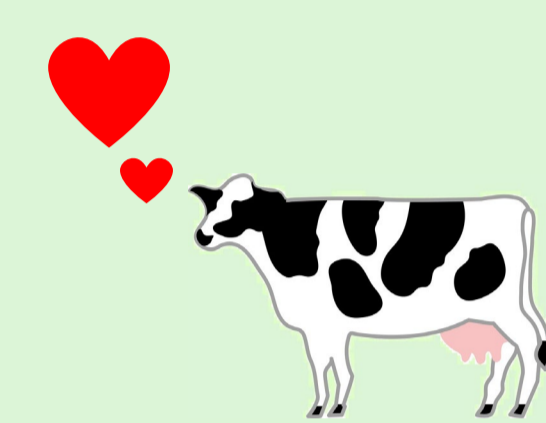
繊維含量が高く、消化が悪いと...

- ・栄養価が低い
- ・たくさん食べられない
- ・栄養価を補う濃厚飼料が多く必要
(トウモロコシ、麦類、大豆粕など)



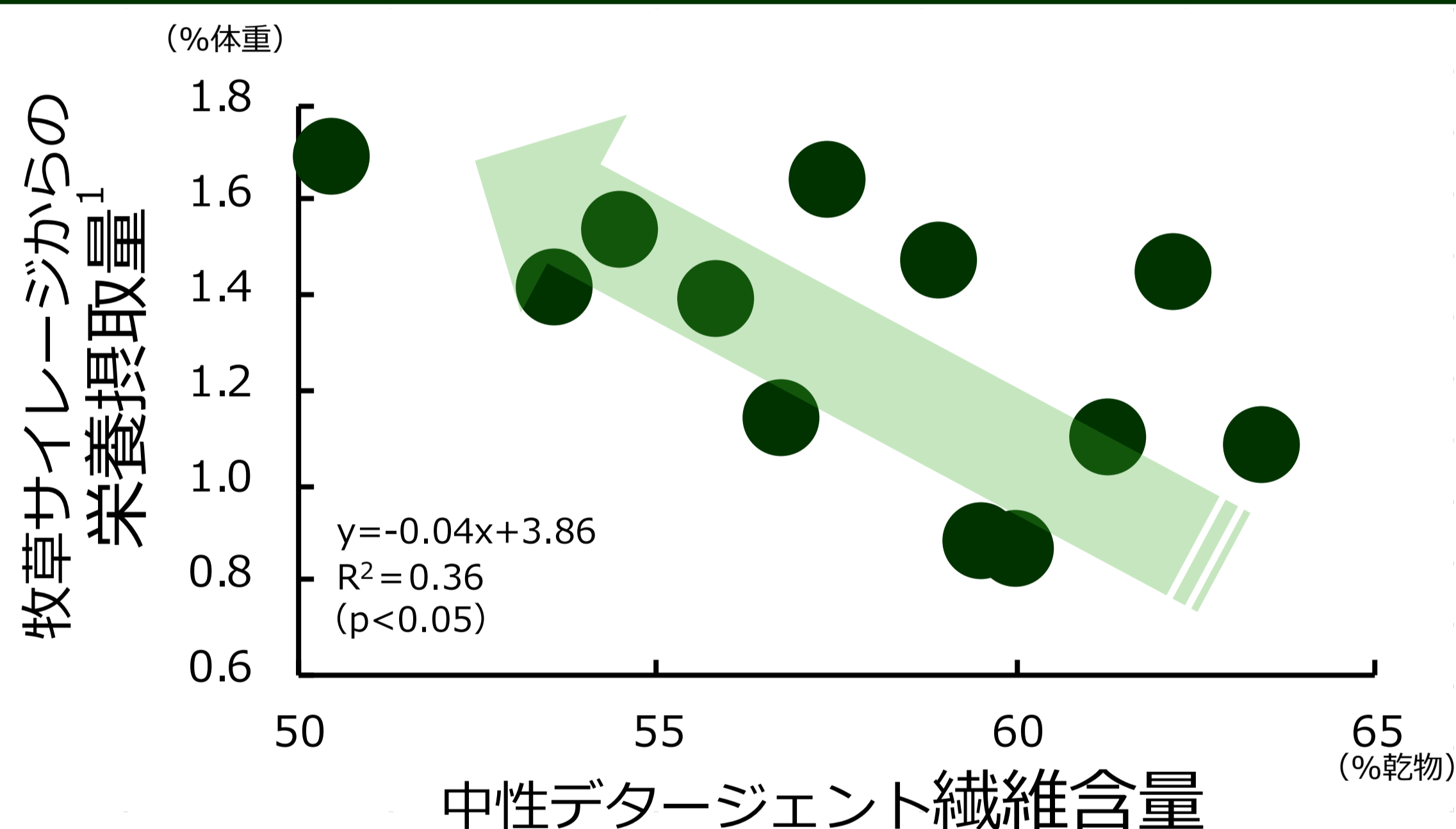
繊維含量が低く、消化が良いと...

- ・栄養価が高い
- ・たくさん食べられる
- ・濃厚飼料の必要量が減る

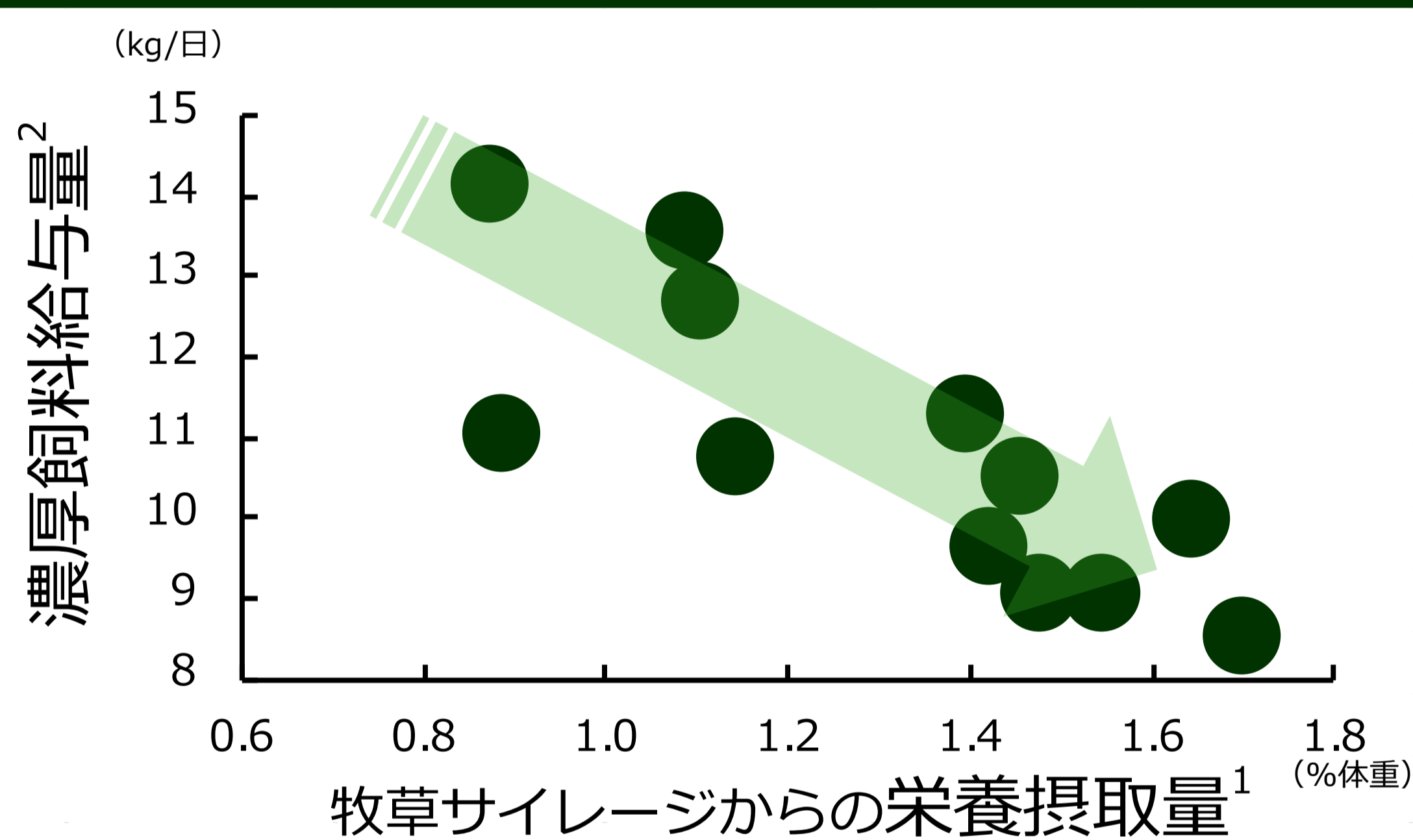


成果 Results

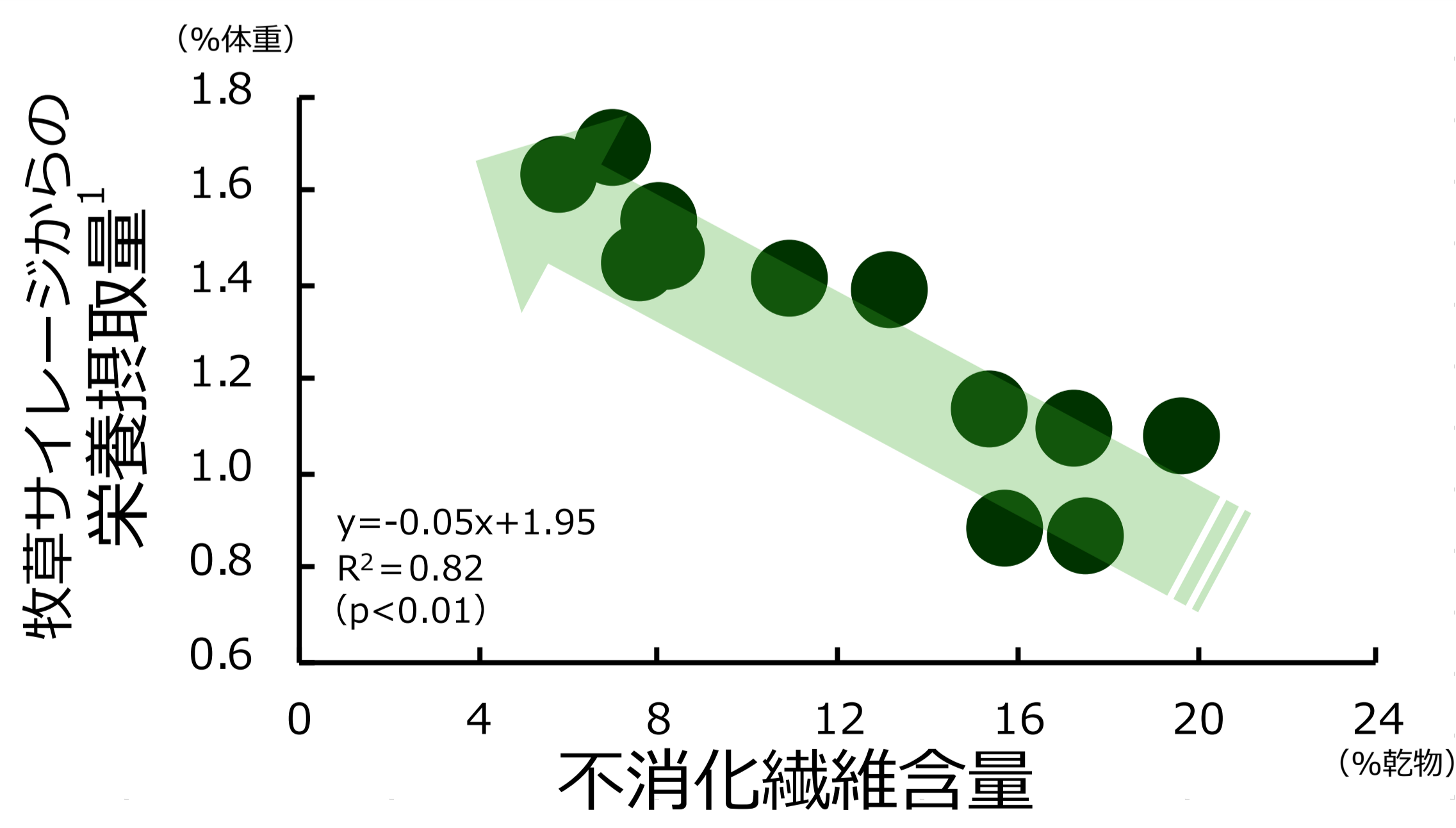
牧草サイレージの繊維の "含量が低い"と摂取量が増加



摂取量の多い牧草サイレージでは乳量を下げずに 濃厚飼料給与量を減らせる



牧草サイレージの繊維の "消化が良い"と摂取量が増加



- ✓ 牧草サイレージからの栄養摂取量¹は、
繊維含量1ポイント低下⇒0.04ポイント増加
不消化繊維1ポイント低下⇒0.05ポイント増加
- ✓ 繊維含量55%未満または不消化繊維10%未満の牧草サイレージなら飼料中の割合を60%以上に高められる³

¹ TDN (可消化養分総量) 摂取量
² 乾物給与量24kgのときの圧片トウモロコシと大豆粕の必要量
³ 乳量水準9,000kg (日乳量30kg) の泌乳牛の飼料設計

普及 Dissemination

酪農家、粗飼料生産支援組織および普及センター等が牧草サイレージ摂取可能量の指標として活用することで飼料自給率の向上が期待できます。

連絡先 Contact

酪農試験場
酪農研究部 乳牛グループ
0153-72-2004
konsen-agri@hro.or.jp